大阪第６地方合同庁舎（仮称）整備事業に伴う

平成 31 年３月 23 日実施大坂城跡発掘調査現地説明会資料

大坂城跡の発掘調査

大坂城三の丸の歴史

織田信長が本能寺の変で討たれた翌年の天正 11（1583）年、羽柴秀吉は大坂城の築城にとりかかります。築城は本丸、二の丸、惣構（そうがまえ）と続き、秀吉の晩年にあたる慶長３（1598）年頃には惣構の内側で三の丸の築造が始まりました。三の丸の築造は秀吉没後も続き、慶長５（1600）年頃には終わったと考えられています。

しかし三の丸は大坂冬の陣によって完全に壊され、その位置や規模は謎のままでした。昭和 55 年に仙台市の個人宅に所蔵されていた『僊台武鑑（せんだいぶかん）』と呼ばれる冊子の中から、大坂冬の陣の配置図を描いたさし絵が発見され、その描写から三の丸の位置を推定できるようになりました。今回の調査地は三の丸の中でも大手口の真西にあたり、大坂の陣以前は大名屋敷があったと想像されます。周辺ではこれまでの調査で、大名屋敷の一部や二の丸大手口西側の堀などが見つかっています。

今回の調査成果

今回の発掘調査は、国土交通省近畿地方整備局による大阪第６地方合同庁舎（仮称）整備事業に伴うもので、公益財団法人大阪府文化財センターが平成 30 年 11 月からおこなっています。調査では、徳川期（江戸時代）の盛土を除去した後、大坂の陣の頃の遺構面を検出しました。今回公開している遺構面は、大坂の陣直前、秀吉没後の三の丸完成時期のものにあたります。

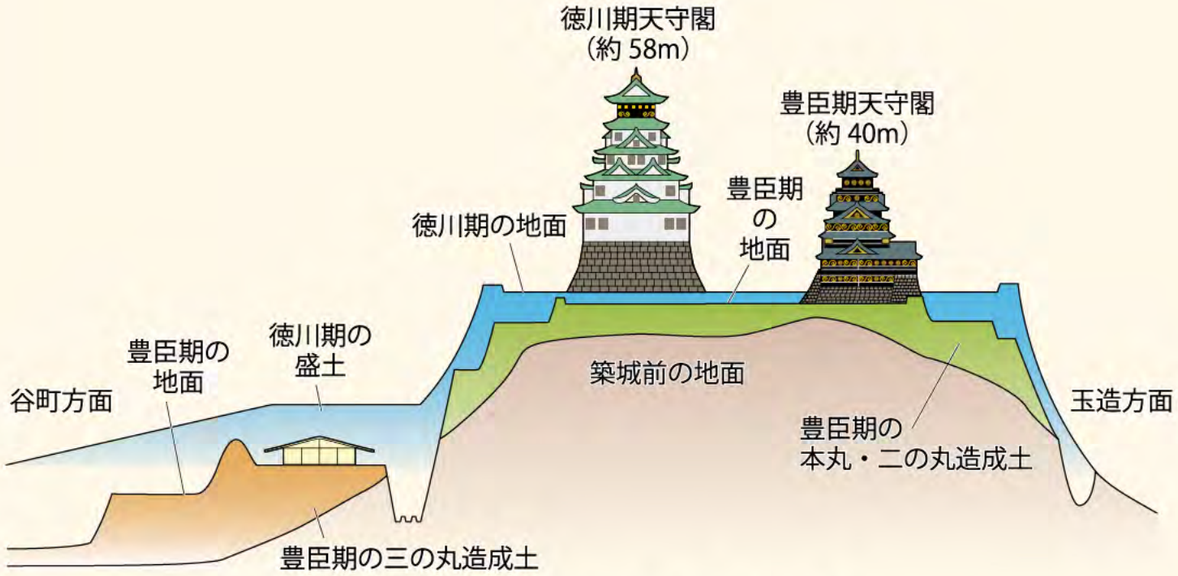
遺構面は、三段のひな壇状に造成されています。それを上段・中段・下段と仮称すると中段が標高 18mほどで、上段と下段はそれぞれ1m前後の比高差があります。上段は調査できた部分が少なく、様相が明らかではありませんが、中段では南北7.5間（15m）、東西 10 間（20m）の大規模な礎石立ち建物が見つかりました。下段は段落ち際に細かい区画が見つかり、火縄銃の未成形の玉がまとまって出土したことから、工房等の存在も推測できます。

大坂城の歴史

年号	西暦	事項	年号	西暦	事項
天正８	1580	織田信長との交戦により、石山本願寺焼亡	文禄３	1594	大坂城惣構築造開始
天正10	1582	本能寺の変、信長が自刃	文禄４	1595	秀吉、秀次の関白職を剥奪し、秀次自刃
天正11	1583	賤ヶ岳の戦い、秀吉が柴田勝家を破る	慶長元	1596	慶長の大地震
		秀吉、摂津を占有し大坂城本丸築城を開始	慶長２	1597	慶長の役
天正12	1584	小牧長久手の戦、秀吉、徳川家康と和す	慶長３	1598	大坂城三の丸築造開始
		大坂城本丸完成			秀吉没
天正13	1585	秀吉、関白に任ぜられる	慶長５	1600	関ヶ原の戦い
天正14	1586	大坂城二の丸築造開始	慶長８	1603	家康、征夷大将軍に任ぜられ、江戸幕府を開く
		秀吉、太政大臣に任ぜられ、豊臣の姓を賜る	慶長10	1605	徳川秀忠、征夷大将軍に任ぜられる
天正16	1588	大坂城二の丸完成	慶長19	1614	大坂冬の陣
天正18	1590	小田原の北条氏降伏、秀吉の天下統一成る	慶長20	1615	大坂夏の陣
天正19	1591	秀吉、関白職を甥の秀次に譲り太閤と号する			秀頼、淀殿自刃、豊臣氏滅亡
		千利休、自害する	元和６	1620	大坂城再建工事開始
文禄元	1592	文禄の役	寛永６	1629	大坂城再建工事終了

※大坂城下町の形成を３つの段階に色分けし、年表（上）と平面図（下）は対応しています。

豊臣期大坂城の平面図（推定）



豊臣期大坂城と徳川期大坂城と三の丸

豊臣期の遺構面と徳川期の盛土

2トレンチで見つかった階段状の通路

2トレンチでは東方向へ昇る階段状の通路が見つかりました。通路の両脇には溝が掘られ、排水の役割を果たしていたと考えられます。路面の直下から出土した遺物を見たところ、この通路は三の丸造成時に造られたと考えられます。2トレンチの西側（谷町筋側）は急激に低くなる地形のため、東側の高地にアクセスする坂を造成したものとみられます。

大坂夏の陣に由来すると見られる焼土・炭灰層からは、安土・桃山時代の陶磁器がまとまって出土しました。

炭灰層からは色鮮やかな漆器や箸が数多く出土しました。邸宅内で使用された食器のようすがわかります。

焼土・炭灰層から出土した装飾品です。漆を塗り金粉で模様を付ける「蒔絵（まきえ）」の技法で製作されています。

下段の区画①の炭灰層から火縄銃の玉が出土しました。丸みを帯びない製造途中のものもあります。

大阪第６地方合同庁舎（仮称）整備事業に伴う大坂城跡の発掘調査現地説明会資料
編集発行／公益財団法人　大阪府文化財センター
〒590-0105　大阪府堺市南区竹城台３丁21番４号　TEL　072-299-8791　発行日／平成31年３月23日

これまでの調査で見つかった佐竹氏家紋の軒丸瓦
（★が出土地点）

Y=-44,050
Y=-44,000
Y=-43,950
Y=-44,100
Y=-44,150
X=-145,750
X=-145,800
X=-145,850
X=-145,900
X=-145,950

大阪国際がんセンター

後世の削平により
豊臣期の遺構は不明

東西方向の溝

南へ落ちる谷の始まり

東西方向の溝と柵

堀障子

三の丸造成時に
掘られた堀

大阪重粒子線センター

東西方向の溝

東西方向の溝

今回の現地説明会対象の調査区

大阪府警察本部

礎石建ちの建物

１トレンチ

大阪府庁新別館

南北方向に建ち並ぶ長屋建物

南北方向の溝

南北方向の柵

２トレンチ
調査成果は裏面に掲載

堀障子

今回の調査地と周辺の調査成果
（豊臣期の遺構配置図）

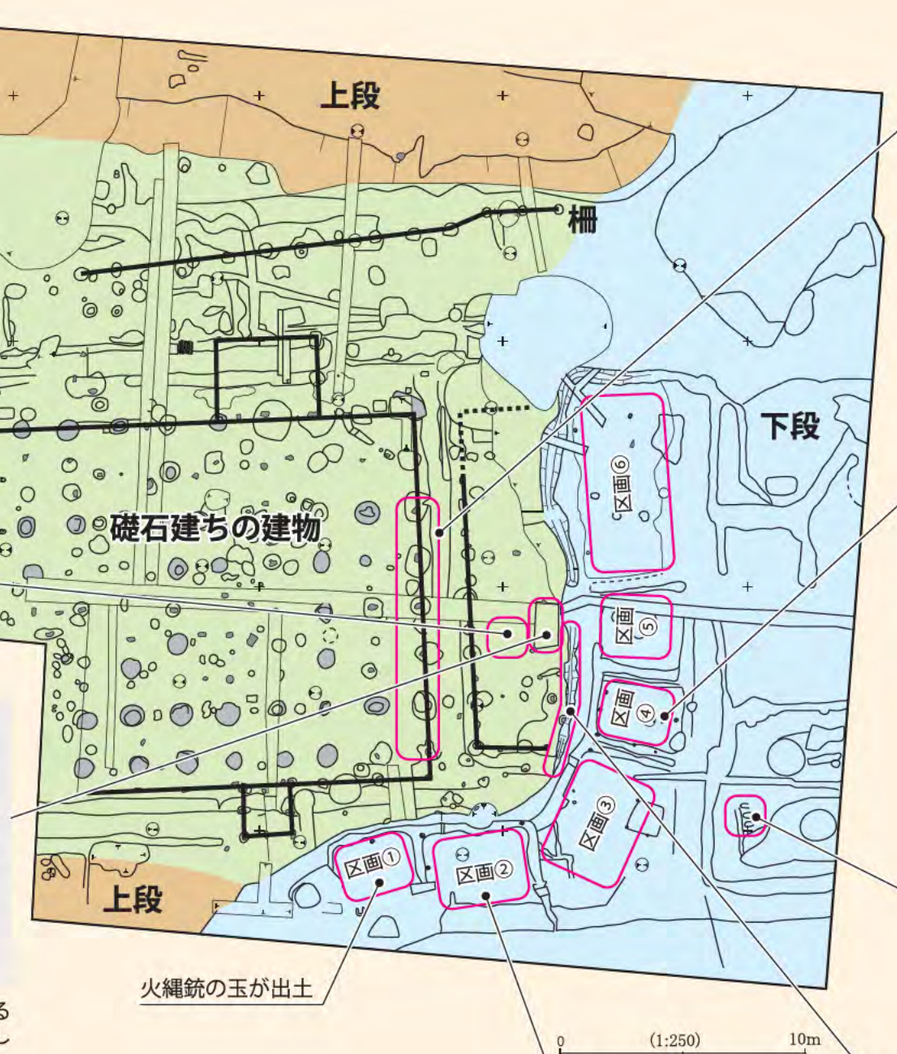
0 (1:1000) 50m

炭灰層の中から、赤漆を塗った椀が出土しました。

炭灰層の中から、たくさんの箸が見つかりました。

瓦で組まれた集水用の桝と考えられます。

瓦組みの桝の中から、佐竹氏の家紋である「扇に月丸紋」をあしらった軒丸瓦が出土しました。



建物の柱を支えていた礎石の列です。石が抜き取られた箇所もありますが、本来は全てに礎石が据え付けられていたと考えられます。

下段は細い溝によって区画されており、大きく６つの区画が見つかりました。

瓦を構築材に使用した、三つ連なったカマドが見つかりました。

大坂の陣に由来する可能性のある焼土・炭灰層が中段と下段に広がっていました。

中段の東端には炭層が広がっており、木製品がいくつも見つかりました。

下段の区画②の地面はほぼ全面が赤く焼けていました。

中段と下段の段差はおおよそ１ｍあり、段落ち際には排水のためと思われる溝が掘られていました。